

姉妹町 西伊豆だより

「福の神」がお菓子に乗って飛んできた！ — 2月3日・田子の豆まき —

2月3日の節分には「鬼は外、福は内」の掛け声とともに炒った大豆をまく、自分の年齢の数だけ豆を食べるなどして、邪気を追い払う習慣があります。全国的にも、有名な神社・仏閣の節分にちなんだ行事がテレビ放映されますが、西伊豆町の田子地区では、節分には福豆よりもたくさんの菓子をまく風習があり、地域の子どもたちが心待ちにしている日でもあります。

当日の夕方を過ぎたころ、子どもたちは大きな袋を提げて、「こんばんは。豆まきましたか。」と声を掛けながら各世帯を訪ね歩きます。最近では、自宅で大がかりに豆や菓子をまく家は少なくなっていますが、ほとんどの家で菓子の入った袋を子どもたちに手渡せるよう、用意をしています。毎年、ミカン用の段ボール箱20個分の菓子をを用意するという民家では、今年も居間や玄関先に約80人の子どもや近所の人が集まり、両手を高く伸ばしたり、畳の上を探するなど、夢中になってスナック菓子やキャンディーなどを拾いました。

かつて、田子で漁業が盛んだったころ、福豆や菓子を「まき餌」、拾う子どもたちを「魚群（こちらの方言では“なぐら”と言います。）」に例えて大漁を祈願したとの説がある伝統行事。現在では、無病息災や家内安全、商売繁盛を祈願する風習として続けられています。



▲大人も子どもも「こっちにまいて〜！」の大歓声

まちの「話題」や「イベント」をご紹介します

News Fujimi



学んだことは「技術」と「素直な心」

◆西伊豆町とスキー交流

1月31日(木)・2月1日(金) 西伊豆町の小学5年生と富士見町内の同学年で、スキー交流を行いました。

インストラクターの指導を真剣に受ける態度、お互いにコースを譲り合う気持ち、転倒した仲間を助ける「こころ」など、この2日間で大切なことを体験しました。



交通死亡事故ゼロ500日達成

◆死亡事故がなかった期間：

2011年8月27日～今年1月7日

2月7日(木) 長野県交通安全運動推進本部から市町村顕彰を受け、本部長(知事)名の賞状の伝達式が行われました。



小林町長は「すべての関係者に感謝をしたい。500日を第一歩として記録を伸ばし、交通安全が一層図られるよう努力したい」と決意を述べました。